

text&photo: Kenji NAKAMOTO (中本健二)



スタート&ゴール地点となったホテルシーバレスリゾートの軒下でしばしの雨宿り。激しい雨にもかかわらず、スタートを待つ参加者の表情はどこか楽しげだ。



昼食休憩の前には、ユタカ自動車学校の休み時間を利用してCP競技が行われた。駐車場を埋め尽くすヒストリックカーに教官たちも興味津々。

レアなクルマも雨に負けず



アーノルド・プリストルで参加の福川純一さんは、日本各地のイベントに出かけるベテラン参加者。1日目は車を閉めた状態でも雨が降りこみメーターが曇ってしまったが、2日目は快晴の下、オープントップでイベントを楽しむ。



初のイベントを満喫



タイプ996カブリオレで雨の中を疾走する小田有司さん、英美子さんペア。ボルシェの他、ヒストリックシトロエンも所有しているとのこと。今回、シトロエンでのエントリーはなかったので、次回はぜひ!

豪雨の後には快晴きたる

ワイディングやシーサイドラン、さらにレギュラリティランを組み合わせた「第7回ヒストリックカーミーティング イン 豊橋」が、5月11-12日にかけて開催された。このイベントは、五感を刺激する極上の「車旅」をテーマに、公道を使用するレギュラリティランの競技性と共に、開催地豊橋の名勝も巡ることができるなんとも贅沢なイベントなのだ。

初日はあいにくの空模様で雨が降りしきり、山間部を走行する本宮スカイラインでは、濃い霧が立ち込め所々に川が出来るほど。参加車両の中にはオープンカーやサイドウインドーすら装着されていない車両も見られたが、悪天候の中を果敢に走りきりゴールを迎えた。豊橋市役所では地元有志による和太鼓

演奏、夜のパーティーでは全国的に有名な手筒花火が打ち上げられるなど、豊橋らしい魅力がぎゅっと詰まった1日目となった。

明けて2日目は、前日とは打って変わって曇りつつない晴天。気温はぐんぐんと上昇して夏日を記録するほどとなり、オープンカーの参加者は先日のうっぶんを振り払うかのように、幌を上げて競技を楽しんだ。スタート会場のホテルシーバレスリゾートから30秒ごとに出発した車両は、蒲郡港第一埠頭でのPC競技や三ヶ根スカイライン、さらにスバ西浦モーターパークでのサーキット走行など、全開走行からPC競技まで、様々なシチュエーションを愛車と共に満喫したのだった。

次回は9月22日に「名古屋クラシックツアー」が予定されている。こちらは1日目の日帰りイベントとなっているので、ヒストリックカーラリーに挑戦してみたいという初心者にもオススメだ。

EVENT DATA

ジャンル:公道ラリー
エントリー車両:1980年までに生産されたスポーツカー
開催日:2013年5月11日-12日
開催地:愛知県 豊橋市
問い合わせ:ヒストリックカーミーティング実行委員会
URL: <http://historiccarmeeting.com/>

Report Memo

レギュラリティラリーでは参加者同士で得点を競いつつ、風光明媚な景勝地を楽しむことが出来るため、初めてのラリーという人や、夫婦で参加しているという人も多い。一度公道ラリーを体験してみたい人にはオススメ。



①ルノー・ドーフィン・ゴルディーニで参加の竹内智久さんは家族で参加。②豊橋市役所では、市民に愛される地元ゆるキャラ、トヨッキーが参加者をお出迎え。③ヨコハマタイヤの新城工場では、昼の休憩時間を利用してPC競技が行われた。④深い霧が立ち込める本宮スカイラインを、ライトオンでジュリアスーパーが駆け抜ける。⑤豊橋の名物、市電と並走するルートも組み込まれていた。⑥1日目最後のPC競技場となった港湾技能研修センター。ターゲットタイムは260m28秒、60m15秒、200m26秒の3連続で行われた。



蒲郡港第一埠頭にボルシェ911GT3(タイプ997)と911カレラ4(タイプ991)の新型ボルシェ2台がやってきました。ここでは、80m14秒、80m13秒、80m13秒を目指して走る3連続PC競技が行われた。



スバ西浦モーターパークのピットレーンにて、出走を待つ参加車両。2日目は晴天に恵まれて気温はぐんぐんと上がり、夏日を記録する程だった。室内の熱気を逃がすため、ドアを開けて涼を取る参加者たち。



2日目の昼食会場となった「豊川おいしい広場」の一角は、ジャガーEタイプやボルシェ356など即席のヒストリックカー展示スペースとなった。自然と見学者も増えて、大きな賑わいを見せていた。



①スバ西浦モーターパークを快走する相楽一清さん、山中章登さん組のジャガーMK2。②サーキット走行を終えた後は、ジャガーMK2が2台揃ってエンジンのクーリング中。③地元の特産品を手ごろな値段で購入できるヤマスイでしばし休憩となった。④頂上のスタンプポイントを目指して三ヶ根山スカイラインを駆け上がるボルシェ356。⑤スタンプポイントの愛知こどもの国に到着したボルシェ356。センターがポコリ突き出したホイールのデザインは「B」の特徴だ。⑥ゴールの芝生広場に展示されたロータス・エクスセルSE。オーナーは姉妹誌ティボーなどでもお馴染みの中島秀之さん。



⑦霧の追加やメッシュグリル。その他バンパーレス仕様となるなど、レーシングモディファイが光るMGAで参加の鈴木正敏さん、小谷裕亮さんペア。フロントバンパーはなんとFRP製。「チリガイマイチかな」とは鈴木さん。



⑧フォグの追加やメッシュグリル。その他バンパーレス仕様となるなど、レーシングモディファイが光るMGAで参加の鈴木正敏さん、小谷裕亮さんペア。フロントバンパーはなんとFRP製。「チリガイマイチかな」とは鈴木さん。

休憩時間に通気&乾燥



ほぼ毎回参加の平井英雄さん、塚本清治さんペアはマトラ・ルネ・ボネジェットでエントリー。エンジンは絶対好調だが、前日の雨で車内やウエアはびしょびしょ。そのため、エンジンフードにウエアをかけて乾燥中。

しっかり日焼けしてイベントを堪能



初参加の山中三四郎さん、弘子さんペアの愛車は、磨き上げられたMGミジェットS2。閉会式では強運を見せてクルマに積めない程の景品をゲット。初めてのイベントは良い思い出となったはず。



九州から遠征しての初参加

RYUKENさん、吉塚晋一郎さんペアは、ボルシェ356Aスピードスターではるばる福岡から参加。イベントの前日から積載車に乗せて遠征してきたとのこと。クルマは好調のようで、スバ西浦モーターパークでも快走を披露した。



ビッグヒーリーで満喫中

オーナーになって約7年という、珍しい6気筒を搭載したオースティンヒーリー100/6で参加の吉川博道さん、由美子さんペア。大トルクを活かして登りは気持ちよく走れたが、下りが連続するとちょっと怖いとのこと。

貴重な個体も走って楽しむ



三浦昌治さん、喜代枝さんペアは、かつてリバイバルプレッシャーコーナーに登場した、地名なしのナンバープレートをもつボルシェ356Aカブリオレで参加。「大事なクルマだけ、やっぱり乗って楽しみたい」。

安藤ペアが総合優勝!



今シーズンは絶対好調という安藤武彦さん、佳代さんペアが2日間を通してトップに立ち見事に総合優勝を果たした。次のヒストリックカーミーティングにも参加するそうなので、我こそはと思う方はぜひ挑戦して欲しい。



五感を刺激する極上の「車旅」を堪能するイベントということで、スタンプポイントは景勝地が設定されお昼の地産の物を楽しめる。毎回変わった趣向のパーティーも特徴で、今回は阿波踊りや、手筒花火まで行われた。